

鹿児島島の昆虫23 クロマダラソテツシジミは越冬できるか？

昆虫担当 金井 賢一

クロマダラソテツシジミは、鹿児島県では2007年7月に旧山川町で初めて発見され、その年は多くの地域で見られました。遠くは大阪でも採集されました。でもその後冬を越せず死に絶えたのか、翌年春には姿を消していました。しかし2008年6月にもまた飛来し、翌2009年にも再び鹿児島県に飛来し、大発生しました。近年は本州にも侵入を繰り返しています。



写真1 成虫

さて、昆虫が新しい土地に住み着くためには、超えなければならないハードルがいくつかあります。①冬季の低温・乾燥をやり過ごすこと。これは冬眠する能力を新たに得たり、低温でもゆっくりと成長できる耐性を身につけることです。②越冬後（越冬中？）にエサがあること。これは、新芽が芽吹くタイミング

グが合うことなどが必要です。③異性に出会い、交尾・産卵できること。1匹だけ越冬しても、子孫を残せなければ春に絶滅してしまいます。この他にも天敵にやられないようにすることも必要でしょう。

この①と②を一気に解消するかもしれない事態が、地球温暖化です。サナギで眠る能力を身につけなくても、鹿児島県本土で年中生活できる気温になるかもしれません。さらにエサのソテツ新芽が手にはいるようになれば、きっとクロマダラソテツシジミは鹿児島県に定着するでしょう。



写真2 幼虫

皆さんの近くのソテツに、クロマダラソテツシジミは飛んでいませんか？4～5月に飛んでいれば、越冬した個体かもしれませんよ。

鹿児島島の植物29

海岸の植物2

植物担当 大屋 哲

27号で紹介した海岸植物に続く第二弾です。風が強く、潮風のあたる過酷な環境で生きる植物を紹介します。

○クサトベラ（クサトベラ科）

砂丘地や隆起珊瑚礁上に生える常緑の低木で、モンパノキなどととともに群落をつくります。鹿児島では、種子島・屋久島以南の海岸に見ら



クサトベラ

れます。トベラより葉が柔らかく草のように見えるためこの名がつけました。

○スナヅル（クスノキ科）

種子島・屋久島以南に分布するつる性の寄生植物です。名の由来は、砂に生えるつるで、海岸の草本植物や、ときにはハマゴウなどの低木にからみつき養分をとります。その姿か

ら地域によっては、「ネナシカズラ」、「シマネナシカズラ」などとも呼ばれています。花は一年をとおして咲いています。



スナヅル

○ツキイゲ（イネ科）

種子島、屋久島以南に分布し、海岸の砂地に生えます。名は、葉の先が突き出たとげ状になり、灼熱の砂の中で生きていることにより、花はハリネズミみたいに球形になり、成熟すると茎から離れ、風にふかれて砂浜を転がり種子をひろげます。



ツキイゲ